

# 認知症の発症を防ぐ供養の効果 — 驚愕する認知症患者数の増加 —

紫雲山地蔵寺

住職 橋本 泰雄

## 過去の予測を遙かに超えて急増

認知症患者の急増が日本社会にとって大問題となつて来ています。新聞等の報道記事の一部を抜粋します。

65歳以上の高齢者のうち認知症の人は推計15%で、2012年時点で462万人にのぼることが、厚生労働省研究班の調査で分かった。軽度認知障害と呼ばれる「予備軍」が約400万人いることも初めて分かった。85歳以上では4割を超える。(朝日新聞25・6・1)

全国の認知症の高齢者は2012年時点で推計550万人に達し、20年前の6倍にのぼることが九州大の清原裕教授(環境医学)らの研究で分かった。認知症予備軍とも言える軽度認知障害の高齢者も推計310万人で、早急な認知症対策が求められる。将来は認知症の高齢者が1000万人に達する恐れがある。(読売新聞25・12・11)

認知症については深刻な問題が数々指摘されています。認知症予備軍と言われる人もいずれば認知症の症状が進行して行く。認知症は進行し治ることもない。

800万人以上が認知症となつたらこの国は一体どうなるのか。徘徊、認知症による交通事故、家族の顔すら判断出来ない、お金の管理が出来なくなる、理屈が通用しない言動、時には危険が伴う。

施設への入所が必要な認知症患者は300万人いるが、高齢者住宅を含む収容施設の定員は150万人ほど。今も施設でのケアが必要な認知症患者の2人に1人があふれてしまつている。認知症患者が増えている今、施設不足は今後も解消されない。

夫婦ともに認知症になれば介護どころか生活が成り立たなくなる。すでに80歳以上の夫婦の11組に1組で、認知症の高齢者が認知症の高齢者を介護する状態にあり、将来的にこれは増え続ける。

ご家庭に認知症の方が一人おられると、ご家族がどれほどの神経、労力を使うか、危険性まで出て来ます。またお世話をする出費を考えると、認知症の方が急増しているのは深刻な大問題であります。家族のいない認知症の方々が大勢おられるのも大変な問題であります。

そして残念なことに、テレビや新聞・雑誌の報道・論評を見ても、認知症の方々の増加を前提の対応策に論点が置かれていません。

## 原因・予防法・治療法が不明

難しい対応が必要な認知症の患者さんのお世話をして下さる医療関係の方々には、ご尽力に深く感謝しなければなりません。然し、考えなければならぬのは、認知症の方がこれだけおられて、更に急増するということは、認知症の原因が解明されていない、予防する方法も治療法も分かっていないことを意味します。

認知症のような重篤な病気が、出鱈目に出て来ているものではないです。深刻な病気が偶然出て来ることになり、世の人々は「どうせ偶然に病気になる、人生が偶然に左右されるのだから好きなことをやってみれば良い」と思うようになって、各人が我が儘勝手に遣りたい放題をするようになってしまいます。そのようなことになったら、人間

社会は調和が保てなくなつて崩壊してしまいます。重篤な病気が偶然出て来ているわけではありません。それ故、難しい認知症でも必ず因縁(大本の原因)があります。

## 認知症の因縁(大本の原因)は

認知症の出て来る因縁(大本の原因)は何かということですが、認知症の初期の症状を考えると、大本の原因が分かりやすいです。

認知症の始まりは、「必要なことを忘れる」「大切なことを忘れる」ということがその方に頻繁に起きるようになり、それが続いて更に種々の症状が加わり、それらが重くなつて行きます。

何故、必要なことや大切なことを忘れるという困った症状が出て来るかですが、医学的に指摘されている身体の変化、加齢等による脳の退化というのも勿論あります。最新の研究の活性酸素が認知症を誘発するというのもあると思います。然し、認知症に罹る方々に共通するのは、その方の生き方、生活の仕方です。「すべき必要なことを忘れている。大切なことを忘れている」ということがあります。その因縁によって必要なことを忘れる、大切なことを忘れるという症状が出て来ていると言えます。

## 大事な必要なこと・大切なこと

そのするべき「必要なこと。大切なこと」は、人として生きて行く上で色々あります。

先ず第一は、「親先祖、亡くなつて居る方々(家系の水子さんたちも入ります)の供養を、丁寧にきちんとする」ということです。

その第二は、「家系に改善すべき因縁があるならば、その因縁の改善に努める」ということです。

勿論これ以外にも、「神仏を敬い、信仰心を持つ」「親孝行をする」「感謝の気持ちを持って生活する」「出来る善事をする」「頑固・頑なという生活の仕方をしないようにする」「(世の中の仕組みに対して)素直な気持ちを持つようにする」「他の人の言う正しい言葉を聞く」等も全部、誰もがするべき必要なこと、大切なことです。

高齢になつて認知症になられる方々は、これらのどれかに相当に欠けていることがあると言えます。例えば、機械でも使わないと錆びつくということがあります。人間でも前述のこれらの項目をしていないと、それらの機能を司る部分が錆びついて、認知症を引き起こすということがあつても不思議ではありません。

なお、若年性認知症で辛い思いをする方までおられます。高齢になつていないのに何故認知症になるかですが、それはご自分がこれらのことをしておられないだけでなく、ご両親、祖父母やその家の代々の方々が、これらをしていないので、高齢になつてもいないのに認知症の症状が出て来たということでもあります。

今日の日本社会はある意味で大変に恵まれていて、日本人は自由な生き方が出来ます。それ故、心して人生を歩まないで、誤つた過度の権利の主張、利己的な言動をしてしまします。逆に、義務を果たすとか他の人のために尽くす・他の人に善意で接するということが少なくなつて来ています。

## 症状を軽くする・治すために

日本では科学的医療が大変に進み、病気になる時や症状が出た時には薬があり応急処置を受けられ、入院して治療を受けて、病気になることも相当なまでに助かる人が多いのは有り難いです。然し、今の医学には供養の大切さ、亡くなっている方の訴えが生きている人の身体に症状として出て来るということについての想定がありません。薬を使うとか放射線を使う、手術をするなど、物理的、化学的に治療するのが主流となっていますので、それだけでは認知症が治りません。

「神仏を敬い、信仰心を持つ」「親孝行をする」「感謝の気持ちを持って生活する」「出来る善事をする」「頑固・頑でないようにする」「素直な心を持つ」「他の人の言う正しい言葉や聞く」等が心がかかるのも大事ですが、認知症になっていの方にこれらのことを助言しても受け入れて貰い難いです。そこで症状が良くなる効果を早く得るためには、取り敢えず前述の採用しやすい次の二つのことに力を注ぐと良いです。

先ずは、「親先祖、亡くなっている方々（勿論家系の水子さんたちも入ります）」の供養を、丁寧にきちんとする」ということであり、次に、「家系に改善すべき因縁があるならば、その因縁の改善に努める」ということであります。

認知症の症状が軽い方であるならば、これらをご自分でする、または伴侶の方とか身近におられる人が、これらを認知症の方と一緒に上げて上げるという効果が出て来ます。また認知症の症状が強く出て来ているならば、その患者さんに供養と一緒にしましょうと誘っても無理でしょうから、親族の人がその人に代わって上げて下さい。

これらをするれば、軽い症状の方の場合は認知症の症状が消えるということが起きて来ます。重い症状の方の場合は、治るとは言えませんが、付き添っている方や近親者がこれらに努めますと、「この症状さえ消えたら」と大変に困っている症状が消えるということも起きます。

## 認知症にならないための供養

今日の日本に於いては「先祖・亡くなっている方々（水子）のご供養をする大切さを、多くの人たちが考えなくなっ

て来ています。人は偶々そこに存在するのではなく、ご先祖様、曾祖父、曾祖母、祖父、祖母の方、ご両親、水子さん達等の亡くなっている方々がいて、そこに存在しています。亡くなっている方々は、生きている人の基盤と同じ、土台と同じです。基盤・土台がガタガタしていたら、その上に立つ人が、真っ直ぐに立つことが出来ません。ご先祖、亡くなっている方々、水子さん達に対する供養を丁寧にすること、生きている人の基盤・土台をしっかりさせることになります。

また、人間の生命力・活力は神仏・ご先祖様からいただいています。ご先祖・亡くなっている方々のご供養に努めることによって生命力を強くいただくことが出来ます。

愛情や労力、金銭や時間等を亡くなっている人のために費やすことが供養になります。それ故、お寺詣りをして冥福を祈る、四国遍路や観音巡礼をして冥福を祈る、追善供養をする、お墓参りをして冥福を祈る、写経をして冥福を祈る等、これら全部が供養になることです。自宅ですぐに出来る毎日の仏壇での供養も真に大切です。

何も問題が起きていないご家庭においても、前述の供養に心がけると共に、普段から一番簡単に出来る自宅の仏壇で朝晩お供え物をお供えして、十五分間ほどお経をあげてご供養されると良いです。お経には一巻一巻に力がありますので、例えば般若心経を十巻、秩父霊地蔵和讃を一巻あげるとか、お経を巻数多くあげると大変効果があります。

何か問題が起きているご家庭においては、朝晩二十分、またはそれ以上の時間をかけてお経をあげて供養して行きますと、それだけで問題が解けて行くとか、それによって問題を解く糸口が出て来ます。そしてこういう努力をなさっている方々の場合は、ご本人やご家族の方々が認知症になり難いです。またご家族の認知症の症状が軽快して行きます。

## ご先祖の加護・導きの大切さ

昔から「神仏・ご先祖様の加護・お導きをいただくのが大事」と言われますが、信仰心を持ってご先祖・亡くなっている有縁の方々のご供養をきちんと丁寧に、そして善事に努めて行くことが、ご家族の方々が神仏・ご先祖様の加護を強くいただくことが出来ます。

ご先祖・亡くなっている方々を、お経をあげて丁寧に供養されるとそのご利益により、ご自身のみならず、子供さん、お孫さんにも良い影響が出て来ます。ご先祖の加護をいただくのは真に大事です。ご供養をよくなさり、先祖の加護が出ていて守られていれば、亡くなっている方の訴えで認知症が出ることを相当なまでに防ぐことが出来ます。

供養のために使った時間や労力、金銭は、決して無駄にならず、かけがえのないものが授かります。この現代の忙しい世の中で朝晩十五分とかそれ以上お経をあげて供養するなど出来ないと考えますが、ご供養を丁寧にすると人生の時間を有効に使えるということが起きて来ます。

人は誰でも人生の大事な岐路に立つことがあります。その岐路に立った時、右が良いと思つて間違つた道を選んでしまったという人がいますが、それは神仏・ご先祖様の加護・導きがその方に出ていないことを意味しています。ご両親もご本人もご供養していないと、こういうことが起きます。岐路で都合により左の道を歩まなければならなくなってしまうたらそれが正解だったという人の場合は、神仏・ご先祖様の加護・導きがきちんと出ているということであり、人生の大事な岐路で間違つた方へ行き、それから正しい道に戻るためには膨大な時間や労力・金銭が必要です。それを考えたならば、朝晩十五分とか二十分間仏壇でご供養することで正しい道を歩めるなら有り難いです。

## 亡くなっている人の訴えの影響も

認知症の方が同じ事を度々言うとか、同じ行動を繰り返す場合、有縁の亡くなっている人の訴えや影響でそれが出ているということがあります。

例えば安価な日用品やお金を「欲しい、欲しい」と度々言われる場合は、その家系の亡くなっている女性が、「生前に夫からきちんと生活費が貰えなくて、生活が辛かった。日用品も思うように買えなかった」という残念な思い・悔しい思いを伝えて来ているということがあり、その方をお慰めしてご供養すると、その繰り返しが消えることがあります。

同じ行動を度々取る場合も、それが意味することを理解して、その行動で訴えて来られている方をお慰めしてご供養すると、その行動が消えるということがあります。高齢の方で、家族の温かいお世話を受けているのに、「この家にはいられない」と言つて自宅から度々出て行くこととするのが堪らなかつた。出て行きたかつた」という思いを持って亡くなつていて、感受性の豊かな子孫の方がその影響を受けて家を出て行くこととします。その行動で亡くなっている方の思いを理解して、思いを解かれるようにお慰めし、その方のご努力に感謝申し上げてご供養すると、その不思議な行動が止まります。認知症の方がおられるご家族に、ご供養を丁寧にされるようにお勧め致します。